

配列の活用

すべての単壁 VZ

単壁を左上と右上の2点座標で表わす。単壁の枚数を maxtk と表わす。k番目の単壁を A_k と表わすことにすると壁の全面積は

$$- \sum_{i=1}^{2^{\text{maxtk}}-1} (-1)^{d_i} \left(\bigcap_{k \in @i} A_k \right)$$

で表わされる。

抽出した単壁 WZ (WX)

$\text{tk}=1.. 2^{\text{maxtk}} - 1$

のそれぞれの tk に対して抽出する単壁の番号の集合 $@\text{tk}$ がある。個数が $\text{kosu} = \partial\text{tk}$ である単壁の番号を $\text{vw}[1].. \text{vw}[\text{kosu}]$ で表わす。

この番号で抽出した単壁は上辺の2つの頂点の座標(要素)で表わされ、配列 WZ をつくる。

ルツボ XZ

初期化して、 WZ の最後の2要素(単壁1個分)を移動する。

WZ と XZ がともに空でないとき次の作業をする。

1) XZ のデータを AZ に移動し、 XZ を空にする。

2) AZ の WZ の次の配列データ候補との重なりを XZ に貯める。

WZ が空または XZ が空のとき作業を終了する。

サシミ AZ

空の AZ にルツボ XZ から配列データ群を移動する。
(XZ は空になる)

WZ の次の配列データ候補との重なりを求める。重なりがあれば XZ に入れる。

最終的に XZ が空ならば抽出した単壁 WZ の重なりは空となり、形態率は0である。



XZ にデータがあればそれは抽出した単壁 WZ の重なり部分を示している。これをもとに形態率の計算する。

XZ にデータがなければ形態率の値は0である。

